

第53回

「地球温暖化」をはじめとする環境問題がますます身近になる一方で、世界の国々が賛同できる国際枠組みの構築は困難な状況にあります。

このような状況下で対策が急がれる中、国際社会はどのように取り組むべきなのでしょう。

CSRの最先端アメリカでの実体験をもとに日本企業向けのCSRコンサルティングを行うコーポレートシチズンシップ代表の雨宮氏から世界で行われている地球環境問題解決への取り組み等について、ご紹介いたします。

コーポレートシチズンシップ 代表取締役 雨宮 寛氏



持続可能な開発目標

国連は今年9月の国連総会におきまして、2015年に終了するミレニアム開発目標（MDGs）に代わる持続可能な開発目標（SDGs）を発表しました。SDGsは2030年までに貧困撲滅をはじめとした17の目標から成り立っています。MDGsは2000年のスタートから、設定した目標の多くを達成し、成果を上げてきました。政府や行政だけではなく、市民セクターや企業の中にもMDGsを意識した運営や経営を進めているところが多くありました。SDGsは、このMDGsの成果を受けてスタートします。SDGsにかかる期待は大きく、いくつかの企業ではすでにSDGsを活かした経営方法を公表する企業も出てきました。



画像① 持続可能な開発目標

(出所：<http://www.greenbiz.com/article/why-sdgs-are-opportunity-companies-cant-afford-ignore>)

デンマークの大手製薬会社のノボノルディスク（ノボ）はSDGsを企業経営に取り入れることを発表した一社になります。ノボは世界でも早くからCSRレポートを単体で制作することを止め、CSRレポートの内容をアニュアルレポートに内含し、統合レポートの制作を進めてきた会社です。同社のチーフ・サステナビリティ・オフィサー兼コーポレート・サステナビリティ・バイスプレジデントのスザンヌ・ソトマー氏は、「SDGsの17の目標は相互に関連していて、これらの目標はどの企業にとっても検討すべき事柄です。」と述べています。ノボは、2030年までの今後15年間に亘って、これら17の目標について進捗状況を単に報告するというではありません。寧ろ、これらの目標を現在および将来の事業活動の羅針盤の役割になるように活用していく計画です。同氏は、「企業は17の各目標を活用するために、それぞれに自社のリソースを同じように配分するべきではありません。しかし、企業はこれらの世界が目指す目標達成に向けて自社の事業活動がどのように貢献できるのであろうかを考え、準備しておくべきです。」と述べています。



画像② ノボノルディスクのChanging Diabetes（変化する糖尿病）プログラム

（出所：<http://www.greenbiz.com/article/novo-nordisk-our-take-sustainable-development-goals>）

同氏は「MDGsとSDGsの大きな違いは、企業がSDGsを作り上げていく過程で大きく貢献してきたということです。SDGsは各国の政策に落とし込むきっかけを提供します。企業は目標を具体的に実行する役割を担います。しかし、SDGsが政策として政府の優先事項に入ることが重要です。」と述べています。たとえば、すでにグローバルな企業であるノボにとって、SDGsを実施することは新市場を開拓することにつながりません。しかし、SDGsの3つ目の目標には糖尿病などの感染症以外の疾患も含まれているために、ノボにとって、糖尿病治療を必要とする世界中の人々との接点を得られる好機です。公共政策における優先度合として、糖尿病などの感染症以外の疾患にも政策面から後押しとなるような対応が必要となります。

SDGsの17番目の目標はパートナーシップです。これは16の目標を達成するために様々なパートナーシップを推進するものです。企業と市民セクターなどとのパートナーシップでは、企業が資金面での協力をし、実行面を非営利機関などの市民セクターが担うケースが一般的でした。このようなケースを「トランザクション・パートナーシップ」と称します。資金の出し手と実務の担い手との取引を示します。ノボでは、Changing Diabetesプログラム（画像②）において「トランスフォーメーション・パートナーシップ」を採用しています。これは、資金、実務、ノウハウを関係するパートナー機関がともに出し合うという形態です。これによって、関係機関が共有する目標を達成するために活動をしていきます。ノボはこの形態の方が、より大きなインパクトを生み出すことができ、そのインパクトも持続可能となると考えています。

このように、SDGsが正式に発表されて2週間ほどの間に、SDGsを企業経営に活かすことを発表する企業が出てきています。ノボはSDGsの目標3と17について同社が取り組む理由について詳しく説明し、CSR関連のウェブメディアで公表しています。今後、ノボに続く企業があらわれ、SDGsについての取り組みを発表していくようであれば、SDGsの目標達成の見通しも明るいでしょう。

略歴

コーポレートシチズンシップ代表取締役。DWMアセット・マネジメント；DWMインカムファンズ日本代表。明治大学公共政策大学院および法政大学現代福祉学部兼任講師。CFA協会認定証券アナリスト。NPO法人ハンスオン東京理事。コロンビア大学ビジネススクール経営学修士およびハーバード大学ケネディ行政大学院行政学修士。クレディ・スイスおよびモルガン・スタンレーにおいて資産運用商品の商品開発を担当。2006年コーポレートシチズンシップを創業。「あなたのTシャツはどこから来たのか？」（ビエトラ・リポリ著 東洋経済新報社）「暴走する資本主義」「格差と民主主義」（ロバート・ライシュ著 東洋経済新報社）「ジェンガ 世界で2番目に売れているゲームの果てなき挑戦」（レスリー・スコット著 東洋経済新報社）などを翻訳。「アショカDVD・社会起業家シリーズ」監修。